

家礼その2～冠礼

第1章 冠＝男子の成人

男子は15歳から20歳にかけて、全員が冠をつける（すなわち成人する）ことができます。[司馬公は「昔は20歳になって冠をつけましたが、それは成人としての礼をつくすように求めるためです。思うに人の子として、弟として、臣下として、年少としてふさわしい行いをその人に求めようとするのですから、その礼は重んじないことはできません。最近は人の心が軽薄であり、十歳を過ぎて子どもの髪形をしている人はわずかです。その人は四つのこと（子としての正しいあり方、弟としての正しいあり方、臣下としての正しいあり方、年少としての正しいあり方）を行うように求められたとして、それを知っているでしょうか。おうおうにして幼児から年長になるまで、愚かさが同一であるのは、成人としての正しいあり方を知らないからです。今、すぐさま改革できないと言っても、しばらく15歳以上の者が『孝経』『論語』に通じ、あらかた礼（礼節）と義（正義）を知ることができるのをまってから、それから冠をつけるのも、さしつかえありません」と言っています]。必ず父母に期（一年）以上の喪がないときであってこそ、はじめて成人式を行うことができます[大功（九か月の喪に服するときの服）を着る期間中で、まだ葬り終わってないときも、成人式を行ってはいけません]。

成人式の三日前に主人は祠堂に告げます。[昔の礼では日取りを占っていましたが、今はそのようにすることはできません。ただ正月のなかから一日を選べば、さしつかえありません。主人は、冠をつける人の祖父で、みずから高祖（祖父の祖父）の後を継ぐ宗子（一族の代表者）となる人を言います。もし宗子でないときには、必ず高祖の後を継ぐ宗子が成人式をつかさどります。わけがあるときには、その次の宗子に命じます。もしその父がみずからつかさどるときには、告礼（告げるための礼）は「祠堂」章に見られ、祝版（祝詞をはりつける板）は前と同じで、ただし「某之子某、若某之某親之子、某年漸長成、将以某月某日、加冠於其首、謹以」と言いますが、後は同じです]。賓（主人を手伝う人）を依頼します。[昔の礼では賓（主人を手伝う人）を占っていましたが、今はそのようにすることはできません。ただ友人のうち、賢くて礼にかなっている人のなかから一人を選べば、さしつかえありません。その日、主人は正装し、その門まで行って、賓（主人を手伝う人）が出てきて会ったら、ふだんの儀礼のようにします。茶をすすり終わり、賓（主人を手伝う人）は起き上がり、向かって「某有子某、若某之某親有子某、將加冠於其首、願吾子之教之也」と言います。それに対して「某不敏、恐不能供事以病吾子。敢辞」と答えます。賓（主人を手伝う人）は「願吾子之終教之也」と言います。それに対して「吾

子重有命、某敢不従（あなたから重ねて頼まれたら、どうして断れましょうか）」と答えます。住んでいる場所が遠いときには、最初のお願いの言葉を書いて手紙にし、子弟を行かせて届けさせます。賓（主人を手伝う人）が辞退したら、使者はしっかりとお願いして、ようやく許可をもらって、「吾子重有命、某敢不従」と返事を書いてもらいます。もし宗子がみずから冠をつけるときには、依頼の言葉は、ただし「某将加冠於首（私は成人しようとしています）」と言うだけで、後は同じです]。

成人式の一日前には、賓（主人を手伝う人）を宿泊させます。[子弟を行かせて賓（主人を手伝う人）に手紙を届けさせますが、その文章には「来日、某将加冠於子某、若某親某子某之首。吾子将涖之、敢宿。某上某人（来たる日、私の子（もしくは私の親族の子）の～成人式をむかえようとしています。あなたは成人式にのぞむにあたり、宿泊していただけませんでしょうか。私より相手方にたてまつります）」と書きます。賓（主人を手伝う人）は「某敢不夙興。某上某人（私はもちろん当日に早起きするつもりです。私より相手方にたてまつります）」と返事を書きます。もし宗子がみずから冠をつけるときには、文章の改めるところは賓（主人を手伝う人）に依頼するときと同じです]。また、道具をならべます。[前庭に盥（たらい）と幌（手ぬぐい）を用意しますが、それは祠堂の作法と同じようにします。帘幕（カーテン）を使って庁事（前庭）の東北に房（小部屋）をつくり、場合によっては庁事（前庭）に二つの階がないときには、埴（粘土）を使って区画します。後は以上を手本にします]。

当日は早朝に起き、冠と服をならべます。[仕官している人は、公服、帯、靴（革靴）、笏になります。仕官していない人は、襦袢、帯、靴になります。普通は皂衫、深衣（正装）、大帯、履（木や布でつくった履き物）、櫛、髪づつみ、掠（切るもの）を使います。以上をすべて房（小部屋）のなかの卓子（机）の上にならべます。東が先頭、北が上になります。酒注（酒をつぐための水さし）、盞盤（杯と皿）も、卓子（机）の上の服の北にならべます。幞頭（冠）、帽子、冠ならびに巾（布のかぶり物）は、それぞれ一盤の上に盛り、帕（ふくさ）をかぶせ、西階の下に準備した卓子（机）の上にならべます。執事の一人がこれを管理します。長子（長男）はというと、阼階の上の東側に席をおき、やや北西に向かって座ります。衆子（長子以外の他の子たち）はというと、やや西南に向かって座ります。宗子がみずから冠をつけるときには、長子の席のようにして、やや南にします]。主人以下は、序列に従って立ちます。[主人以下は、きれいに正装して、決められた位置につきます。主人は阼階の下、やや東で、西に向きます。子弟、親戚、童僕は、その後ろにいて、二列にならび、西に向きます。北が上となります。子弟や親戚のうちで、礼を習っている者の中から一人を選んで僮（案内係）とし、門外に立たせ、西に向かせます。冠をつけよ

うと人は、双紵（髪形の種類）、四ケイ衫（衣服の種類）、勒帛（帯の種類）、采履（履き物の種類）を身につけ、房（小部屋）の中にいて、南に向きます。もし宗子の子でないときには、その父は主人の右に立ち、目上のときにはやや進み、目下のときにはやや退きます。宗子がみずから冠をつけるときには、服は冠をつけようとする人と同じようにして、主人の位置につきます。賓（主人を手伝う人）が到着したら、主人は迎え入れ、堂（表座敷）に登ります。[賓（主人を手伝う人）は、その子弟や親戚のうちで、礼を習っている人を見ずから選んで贊（賓の補佐役）とします。冠をつける人は、賓（主人を手伝う人）と贊（賓の補佐役）と一緒にきれいに正装して門の外に行き、東に向かって立ち、贊（賓の補佐役）は、その右にいて、やや退きます。僮（案内係）は、入って主人に告げます。主人は、門を出て左に立ち、西に向かって二度おじぎします。賓（主人を手伝う人）は、それに答えて、おじぎします。主人は、贊（賓の補佐役）に対して、手を組み合わせて挨拶します。贊（賓の補佐役）は、それに答えるかたちで、手を組み合わせて挨拶します。主人は、手を組み合わせて挨拶をし終えてから移動します。賓（主人を手伝う人）と贊（賓の補佐役）は、主人についていきます。門を入り、庭を分かれて移動し、手を組み合わせて謙虚に挨拶してから階のところまで行き、さらに手を組み合わせて謙虚に挨拶してから登ります。主人は阼階より先に登り、やや東で、西に向きます。賓（主人を手伝う人）は、西階より続いて登り、やや西で、東に向きます。贊（賓の補佐役）は手を洗い、手をぬぐい、西階より登り、房（小部屋）の中に立ち、西に向きます。擯（客の接待係）は、東序（正殿の東にある脇屋）に着席し、やや北により、西に向きます。冠をつけようとする人は、房（小部屋）を出て、南に向きます。もし宗子の子でないときには、その父も子について出てきて、賓（主人を手伝う人）を迎えて入り、主人についていき、賓（主人を手伝う人）に続いて登り、主人の右に立ちます。これは前と同じようにします。]。賓（主人を手伝う人）が、手を組み合わせて挨拶します。冠をつけようとする人は、席について、冠をつける儀式を行います。冠をつける人は、小部屋に向かい、礼装を着て、履をはいて、出ます。[賓（主人を手伝う人）が、手を組み合わせて挨拶します。冠をつけようとする人は、小部屋を出て、席の右に立ち、席のほうを向きます。贊（賓の補佐役）は、櫛、髪づつみ、掠を取って、席の左に置き、立ちあがり、冠をつけようとする人の左に立ちます。賓（主人を手伝う人）が、手を組んで挨拶します。冠をつけようとする人は、席について、西向きにひざまずきます。贊（賓の補佐役）は、席について、同じ方向を向いてひざまずきます。進んで冠をつけようとする人の髪に櫛をいれ、髪をたばねて掠で髪を切ります。賓（主人を手伝う人）は、そこで降ります。主人も降ります。賓（主人を手伝う人）が手を洗い終わったら、主人は手を組み合わせて挨拶をし、

登ってもとの位置に戻ります。執事は、冠を盆に載せて進み出ます。賓（主人を手伝う人）は、階段を一段だけ降り、冠と笄（かんざし）を受け取り、しっかりとした姿勢で、ゆっくりと冠をつけようとしている人の前まで行き、冠をつけようとする人を祝って「吉月令日、始加元服、棄爾幼志、順爾成徳、寿考維祺、以介景福（成人式にふさわしい今月の今日、元服（髪をゆい、冠をつけて成人する儀式）を行うことにする。汝の子どものような考えを捨て、汝の磨いてきた道德心に従い、長寿と安心を享受し、そうして大きな幸福をもたらせ）」と言います。そこで、ひざまずき、冠をつけます。賛（賓の補佐役）は、巾（布製のかぶり物）をひざまずいて差し出し、賓（主人を手伝う人）は、これを受け取って冠にかぶせ、立ち上がり、もとの位置に戻り、手を組み合わせて挨拶をします。冠をつける人は、小部屋に向かい、四ケイ衫をぬぎ、礼服を着て、大帯をまき、靴をはいて小部屋を出ます。しっかりとした姿勢で、南に向き、立ったまましばらくじっとしています。もし宗子がみずから冠をつけるときには、賓（主人を手伝う人）が手を組み合わせて挨拶をしたら、席につきます。賓（主人を手伝う人）が降りて、手を洗い終わっても、主人は降りません。その他は、いずれも同じです。次に帽子をつける儀式を行い、皂衫を着て、帯をしめ、靴をはきます。[賓（主人を手伝う人）が、手を組み合わせて挨拶をします。冠をつける人は、席について、ひざまずきます。執事は、帽子を盆に載せて進みます。賓（主人を手伝う人）は、階段を二段だけ降り、これを受け取って、冠をつける人の前まで行き、祝って「吉月令辰、乃申爾服、謹爾威儀、淑順爾徳、眉寿永年、享受胡福」と言います。そこで、ひざまずいて、冠をつける人に帽子をかぶせます。立ち上がり、もとの位置に戻り、手を組み合わせて挨拶をします。冠をつける人は、小部屋に向かい、礼服をぬぎ、皂衫を着て、帯をしめ、靴をはいて小部屋を出て立ちます。その次に幞頭をつける儀式を行い、公服を着て、帯をしめ、靴をはき、笏を手持ちします。もしくは襦袢を着て、靴をはきます。[礼は、帽子をつける儀式のようにします。ただ執事は幞頭を盆に載せて進みます。賓（主人を手伝う人）は、階の下まで降り、これを受け取って、祝って「以歳之正、以月之令、咸加爾服、兄弟具在、以成厥徳、黄耇無疆、受天之慶」と言います。賛（賓の補佐役）は、かぶり物をとります。賓（主人を手伝う人）は、そこで幞頭をかぶせます。執事は、かぶり物を受け取って、櫛をとります。それから小部屋に入るわけですが、その他はいずれも同じです。ここで杯を受け、酒を飲み干します。[長子（最初に生まれた子）の場合には、賓（主人を手伝う人）は堂（表座敷）の真ん中あたりのやや西に席を改め、南に向きます。衆子（長子以外の子）の場合には、もとの席を離れません。賛（賓の補佐役）は、小部屋のなかで酒をくみ、小部屋を出て、冠をつける人の左に立ちます。賓（主人を手伝う人）は、手を組み合わせて挨拶をします。冠をつ

ける人は、席の右について、南に向きます。そこで酒をとり、席の前まで行き、北に向いて、祝って「旨酒既清、嘉薦令芳、拜受祭之、以定爾祥、承天之休、寿考不忘」と言います。冠をつける人は、二度おじぎし、席に登って南に向き、盞（杯）を受けます。賓（主人を手伝う人）は、もとの位置に戻り、東に向いて、相手の礼に答えるためにおじぎします。冠をつける人は、席の前に進んで、ひざまずき、酒をそなえて神をまつて、立ち上がります。それから席の末につき、ひざまずいて酒に口をつけ、立ち上がります。席を降り、贊（賓の補佐役）に盞（杯）をあずけ、南に向いて二度おじぎします。賓（主人を助ける人）は、東に向き、相手の礼に答えるためにおじぎします。冠をつける人が贊（賓の補佐役）におじぎをし終わったら、贊（賓の補佐役）は賓（主人を手伝う人）の左で東に向き、やや退いて、相手の礼に答えるためにおじぎします。賓（主人を手伝う人）は、冠をつける人に字（呼び名）をつけます。[賓（主人を手伝う人）は、階を降り、東に向きます。主人は、階を降り、西に向きます。冠をつける人は、西階より降り、やや東により、南に向きます。賓（主人を手伝う人）は、字をつけて「礼儀既備、令月吉日、昭告爾字、爰字孔嘉、髦士攸宜、宜之於嘏、永受保之、曰伯某父」と言います。文中の伯（長男）の部分は、次男なら「仲」、三男なら「叔」、末っ子なら「季」と相手に合わせて言い換えませす。冠をつける人は、答えて「某雖不敏、敢不夙夜祇奉」と言います。賓（主人を手伝う人）は、場合によっては「今回、どうして、そのような字をつけたのか」について、その意味を紹介する文章をつくっても、さしつかえありません。そこから出て、次（とぼりを張ってつくった控所）まで行きます。[賓（主人を手伝う人）は、退くことをお願いします。主人は、賓（主人を手伝う人）に「お礼をさせてください」とお願いします。賓（主人を手伝う人）は、そこから出て、次（とぼりを張ってつくった控所）まで行きます]。主人は、冠をつける人を祠堂において会わせませす。[「祠堂」章にあった子が生まれたときに会う作法のようにしませす。ただ告げる文章を改めて、「某之子某、若某親某之子某、今日冠畢、敢見」と言います。冠をつける人は、進んで両方の階の間に立ち、二度おじぎしませす。その他は、いずれも同じです。もし宗子がみずから冠をつけるときには、文章を改めて、「某今日冠畢、敢見」と言います。二度おじぎし終わったら、降りて、もとの位置に戻りませす。その他は、いずれも同じです。もし冠をつける人は、私室に曾祖（曾祖父）、祖（祖父）以下を祭る祠堂をもっているときには、それぞれその宗子（一族の代表）として会い、みずから曾祖（曾祖父）以下を受け継ぐ宗（本家）となり、そのときにはみずから会います]。冠をつける人は、尊長（目上の人）に会います。[父母は、堂（表座敷）の真ん中において、南に向いて座りませす。諸叔父兄（おじたち、兄たち）は東序（正殿の東にある脇屋）において、諸叔父（おじたち）は南に向き、諸兄（兄たち）は

西に向きます。諸婦女（おばたち、姉たち）は西序（正殿の西にある脇屋）にいて、諸叔母姑（おばたち）は南に向き、諸姉嫂（姉たち）は東に向きます。冠をつける人は、北に向いて、父母におじぎします。父母は、それに応じて起き上がります。尊長（目上の人）が同居しているときには、父母は冠をつける人をひきつれ、その室（部屋）まで行き、おじぎします。尊長（目上の人）は、それに応じて起き上がり、戻って東西の序に着席します。列ごとに二度おじぎし、その礼に答えるためにおじぎしてくるのに応じて、それに答えるためにおじぎします。もし宗子（一族の代表）の子ではないときには、先ず宗子（一族の代表）と父より上位の者に堂（表座敷）において会い、それから私室に行って父母とその他の親族に会います。もし宗子（一族の代表）がみずから冠をつける場合で、母がいるときには、母に会うのは作法のとおりになります。族人（一族の人間）で中心となっている人は、全員が堂（表座敷）上に来て会います。宗子（一族の代表）は、西に向き、その尊長（目上の人）におじぎし、列ごとに二度おじぎし、卑幼（目下の人）のおじぎを受けます。ここで賓（主人を手伝う人）にお礼します。[主人は、お礼のための酒食を用意しているところに賓（主人を手伝う人）と贊（賓の補佐役）を案内し、お礼として金品をわたして、おじぎして感謝します。金品の多少については、時と場合に応じて妥当なものになります。また、賓（主人を手伝う人）と贊（賓の補佐役）には金品の多少に差をつけます]。冠をつける人は、終わったら、地域の年長者と父の親しくしている友人に会いに出ます。[冠をつける人がおじぎしたら、年長者や父の親友は全員がそれに答えるためにおじぎします。もし教訓を教えてくれたときには、賓（主人を手伝う人）に対するように対し、しかも冠をつける人はおじぎしますが、年長者や父の親友はそれに答えるためにおじぎすることがないようにします]。

第2章 笄～女子の成人

女子は、婚約したら、笄をつけます（すなわち成人します）。[15歳になれば、まだ婚約していなくても、笄をつけます]。

成人式の三日前は、賓（主人を手伝う人）を依頼します。前日は、賓（主人を手伝う人）を宿泊させます。[賓も、親姻（結婚によって結ばれた女系の親族）の婦女のうち賢くて礼にかなっている人を選び、賓とします。牋紙（手紙用の小さな紙）を使って、賓になってもらうことを依頼する文章を書き、人に届けさせます。文章は、男子の成人式と同じようにします。ただし「子」は「女」とし、「冠」は「笄」とし、「吾子」は「某親」あるいは「某封」とします。およそ婦人が自分の尊長（目上の人）に自称するときには、「兒」と言います。卑幼（目下の人）のときには、夫の序列に合わせ、相手が夫の尊長（目上の人）

のときには「新婦」と言い、相手が夫から見て卑幼（目下の人）のときには「老婦」と言います。親戚ではないけれども親交のある人に対しては、その相手との上下関係に応じて、自称を変えます。後はこれを手本にします。成人式のための道具をならべて置きます。[男子の成人式と同じようにします。ただ中堂に席を設定し、それは衆子（長子以外の他の子たち）の位置と同じようにします]。

成人式の当日の朝は、服をならべて置きます。[男子の成人式と同じようにします。ただ背子（女性の礼服）と冠笄を用います]。序列に従って立ちます。[主婦が主人の役割と同じようなことをします。笄をつけようとしている人は、雙紵、衫子を身につけ、小部屋のなかで南に向きます]。賓（主人を手伝う人）が到着したら、主婦が迎え入れ、堂（表座敷）に登ります。[男子の成人式と同じようにします。ただ贊（賓の補佐役）を用いず、主婦は阼階から登ります]。賓（主人を手伝う人）は、笄をつけようとする人のために冠をつけてあげます。（笄をつける人は）小部屋まで行き、背子（女性の礼服）を着ます。[ほとんど男子の成人式と同じようにします。ただ祝うときは、はじめて笄をつけるときの文章を用い、できないときは省略します]。ここで酒をつぎます。[男子の成人式と同じようにします。文章も同じです]。ここで字（呼び名）をつけます。[男子の成人式と同じようにします。ただ祝うときの文章は、「髻士（りっぱな男）」を「女士（りっぱな女）」に変更します]。ここで賓（主人を手伝う人）にお礼をします。すべて男子の成人式の作法と同じようにします。